

地域包括的支援サービスを志向した 意思伝達のための語彙収集に関する研究

2019-03-16

石橋豊之 柊和佑 三河正彦 安藤友晴



背景

- インターネットの発展
 - 様々な「組織」と「サービス」が乱立
 - MLA連携とデジタルコンテンツのワンストップサービスが求められている
- 他方で
 - 人口減により過疎地の消滅が現実味
 - 地方の情報を記録しないと……
 - ただ、地方の語彙や方言は放置気味
(一地方在住研究者のつぶやき/肌感覚)

目指すべきゴール

- つまり……
 - インターネット＝道具の基礎はある
 - 「地域の記憶」に注目が＝今は特需
 - ただ、地域住民は高齢化
＝収集を急がないとダメ
- 五十年後に消え去っている地方のために
五十年後に「使える」アーカイブが必要

＝従来から図書館がやっていたこと

目指すべきゴール

- つまり……
 - インターネット＝道具の基礎はある
 - 「地域の記憶」に注目が＝今は特需
 - ただ、地域住民は高齢化
＝収集を急がないとダメ
- 五十年後に消え去っている地方のために
五十年後に「使える」アーカイブが必要

＝従来から図書館がやっていたこと

主研究対象：北海道稚内市

- 周辺地域も含め過疎が進行
 - 消滅可能性都市
- 180キロ圏内に（日本の）他の市がない
 - ほぼ、稚内の住人しか歩いていない
- その他特徴
 - サハリンに近い＝文化の特徴
 - 自然が人を試してくる(風雪・気温・野生動物)
＝ロボット実験に最適

これまでの調査

- 情報を包括的に収集する
支援システムを研究している
 - 地域が使いやすい語彙とともにその意味を蓄積する
 - 基本語彙と特有語彙の分類も範囲
- 稚内市において実験を実施
 - 稚内地域情報DA(本グループが収集)をコンテンツとして利用
 - 利用した市民の情報を収集

→市民の地域情報には、多くの地方の特有語彙が含まれる



* 2017年稚内北星

冬の実験風景(2018年度)



これまでの調査

- 情報を包括的に収集する
支援システムを研究している
 - 地域が使いやすい語彙とともにその意味を蓄積する
 - 基本語彙と特有語彙の分類
- 稚内市において実験を実施
 - 稚内地域情報DA(本グループが収集)をコンテンツとして利用
 - 利用した市民の情報を収集

→市民の地域情報には、多くの
地方の特有語彙が含まれる



* 2017年稚内北星

地方の特有語彙？

ここからが本題

地方の特有語彙

- その地方でしか使っていない語彙
 - タグ的な手法でいけると考えていた
- ↓
- 軽い気持ちで調査
 - 辞書を作ればいいのでは……程度
- ↓
- 細かい地域（海・山）、職業、性別、年代、イベントの前後、所属コミュニティで変化（狭い地域なので同じものを指している）

地名に関する課題

- 地域特有語彙としての地名
- 当時の地名と現在の地名とが同一とは限らない
- 現在の地名との同定が必要
 - 50年後の活用を目指すため

本研究のめざすところ

- 地名について、その変遷情報と収集時にわかる段階までの情報を追加する必要がある
- 本研究ではアーカイブする上で重要となる地名の変遷に関し調査を実施
 - 記録方法や組織化についての手法について検討
 - 稚内市を事例として行っている

本研究の対象

- 地名
 - 地域住民内で共有されている愛称
- 行政上のもの
 - そのうちさらに細かい区分
 - 丁目など

研究手法

- 行政文書の調査
 - 本研究では稚内市が保存している議決書
- 地方自治法第260条
 - 市町村長は、政令で特別の定めをする場合を除くほか、市町村の区域内的の町若しくは字の区域を新たに画し若しくはこれを廃止し、又は町若しくは字の区域若しくはその名称を変更しようとするときは、当該市町村の議会の議決を経て定めなければならない。

研究手法

- 稚内市の議決書
 - 市制施行以降（1949）のもの
- また、参考として
 - 稚内市webサイト内に設けられた“稚内市の沿革”
 - 北海道立図書館・北海道立公文書館の資料
 - 関連図書

稚内市の沿革

- ほとんどの変更を記録

- 一部欠落
- 変更前後が不明瞭

- 例

あらたに画する町の区域

潮見町 1 丁目～潮見町 6 丁目、緑町
1 丁目～緑町 5 丁目、港町 1 丁目～港
町 3 丁目

変更する町の区域

港町 4 丁目、港町 5 丁目

結果

- 稚内市の議決書を閲覧することにより、市制施行以降の地名の変遷をたどることができた
- 一部発見できない変更もあった
 - 市制施行以前から制定されている地名
 - 議決書が存在しない

結果：例

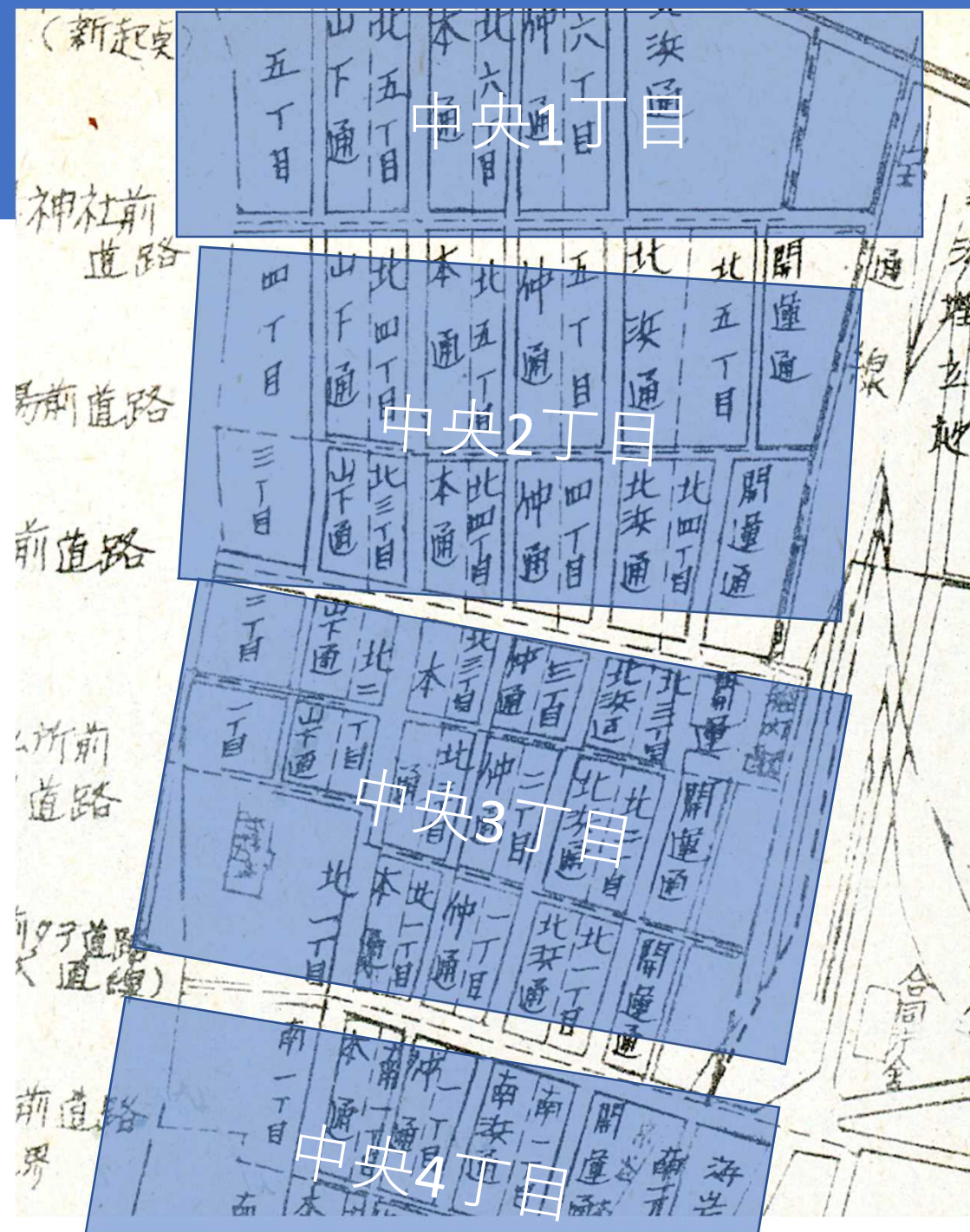
住居表示の実施に伴い、町、字の区域を次のとおり設定、廃止する。

- ・あらたに画する町の区域

中央 1 丁目～中央 5 丁目、宝来 1 丁目～宝来 5 丁目、恵比須 1 丁目～恵比須 5 丁目、ノシヤツプ、ノシヤツプ 1 丁目～ノシヤツプ 5 丁目、富士見 1 丁目～富士見 5 丁目

- ・廃止する字の区域

山下通 1 丁目～山下通 8 丁目、本通北 1 丁目～本通北 5 丁目、本通南 1 丁目～本通南 3 丁目、中通北 1 丁目～中通北 8 丁目、中通南 1 丁目～中通南 3 丁目、北浜通 1 丁目～北浜通 12 丁目、南浜通 1 丁目～南浜通 4 丁目、開運通北 1 丁目～開運通北 5 丁目、開運通南 1 丁目～開運通南 4 丁目、海岸通 1 丁目～海岸通 4 丁目、宝来通 1 丁目～宝来通 5 丁目、恵比須通 1 丁目～恵比須通 12 丁目、今江通 1 丁目～今江通 6 丁目、日吉通 1 丁目～日吉通 4 丁目、エサンドマリ、ホロトマリ、ニヲトマリ、チカツプ、ノシヤツプ



このような例も

住居表示の実施に伴い、町の区域を次のとおり設定、廃止する。

- ・あらたに画する町の区域

港 1 丁目～港 5 丁目、大黒 1 丁目～大黒 5 丁目、
潮見 1 丁目～潮見 5 丁目、末広町、開運町

- ・廃止する町の区域

港町 1 丁目～港町 5 丁目、大黒町 1 丁目～大黒町 5 丁目、潮見町 1 丁目～潮見町 6 丁目

データベースへの格納

id	name	year	コメント
16	今江通5丁目	1897/2/27	
17	今江通6丁目	1897/2/27	
18	日吉通1丁目	1897/2/27	

id	from_id	to_id	year	コメント
130	16	153	1970/4/1	
131	17	153	1970/4/1	
132	18	147	1970/41/1	

開運町を例にすると

- from: 0 埋立地
- to : 199 ヤムワツカナイ
- from: 199 ヤムワツカナイ
- to : 331 開運町
- from: 331 開運町
- to : 387 開運町(埋立地が加わったため)

地図データに関して

- 議決書付随
 - 別図として、変更の際につけられていた（一部）
- 手書きではあるが概ねの位置は把握できる

地図のQGISへのはめ込み

1. 画像処理ソフト（Adobe Photoshop CC 2019を使用）で町ごとに切り分け
2. 国土地理院基盤地図情報基本項目データをダウンロードし、SHAPE形式に変換
3. QGIS(3.4.3-Madeira)に取り込み
4. ジオリファレンス処理を施し、切り分けた地図をQGISへと当てはめた

地図のQGISへのはめ込み



地図のQGISへのはめ込み



今後の課題と展望

- 地名と地理情報を結びつけていくか
 - 残存する地図を変更ごとにまとめ
QGIS等を用いて現在の場所との同定
- メタデータの設計
- 利活用手法の検討と実験
- フレームワークの構築
 - 稚内LODへの適用を目指す

今後の課題と展望

- 本発表での地名の変遷は行政上のものを対象

→ 今後は、オーラルヒストリー等を用いて、地域住民内でのみ共有されている地名の変遷に関しての調査も実施していく予定

参考文献

- **参考文献**

- 石橋豊之, 柊和佑, 三河正彦, 安藤友晴. 地域新聞からみる地域特有のメタデータ：大韓航空機撃墜事件を事例に. デジタルアーカイブ学会誌, 2018, Vol.2, No.2, p.20-23.
- 筑波大学大学院 生命環境科学研究科空間情報科学分野 村山祐司研究室." 行政界変遷データベース". 歴史地域統計データ.
http://giswin.geo.tsukuba.ac.jp/sis/his_download/data.htm, (閲覧 2019/1/25).
- 杉本重雄, 三原鉄也, 永森光晴. コミュニティアーカイブとしての東日本大震災アーカイブ: オープンデータ連携による利用性の向上. デジタルアーカイブ学会誌, 2018, Vol.2, No.4, p.359-363. (引用部分は、p.362.)
- 安藤友晴, 石橋豊之. 稚内LODの構築と公開. 稚内北星学園大学第8回地域活動報告会 ポスター報告. 2018年2月27日実施

謝辞

- 本研究は、以下の助成を受けている
 - 平成30年度稚内北星学園大学
地域志向教育研究経費
 - JSPS科研費17K12793